

# (一般社団法人) 大学女性協会仙台支部便り



## 「け や き」 No. 21

令和 2 年 11 月 20 日発行

(ホームページに掲載するにあたり、一部の写真の削除し、  
個人名を原則としてイニシャルに変更しました。)

### 本号の内容

レポート	仙台支部は 6 月から「Web 役員会」を開いています！ (K. U.)
レポート	公開シンポジウム「教育・ジェンダー・共生—コロナ禍を契機に見えてきた教育の本質—」に参加して (R. Y.)
レポート	全国支部長会 (F. A.)
特別企画	コロナ禍と私たちの仕事・暮らし (仙台支部会員)
追 悼	愛知絢子さん (Y. S.)
お知らせ	facebook グループを作りました (C. A.)
今後の予定	「Zoom 新年会 (仮題)」のお知らせ (役員会)

## 仙台支部は 6 月から「Web 役員会」を開いています！

K. U.

仙台支部では、2020 年 2 月 8 日 (土) に国際ホテルでの「新年会」を終えた後、予定していた 3 月 16 日の「桃の会」、4 月 22 日の「総会」が新型コロナウイルス感染症の蔓延によって中止を余儀なくされました。毎月エルパーク市民活動スペースで開いていた役員会も、エルパークが閉鎖されたことと三密を避ける為に中止せざるを得ませんでした。

5 月の連休明けに緊急事態宣言は解除されましたが、集合場所まで交通機関を利用する事なども考えると、感染リスクを避ける為にはメンバーが集まる活動を当面自粛することとしました。とはいえ、活動をすべて停止してしまう訳にはいかず、役員会だけでも開かなければ、という相談になりました。

新型コロナ禍で広く生活に浸透してきた「在宅勤務」「Web 会議」「リモート飲み会」など、皆さんも度々耳にされたことがあるのではないかと思います。役員会も、自宅に居ながらネット画面で顔を合わせてコミュニケーションを取れる「Web 会議」にすればリスクなく活動できるということで、取り敢えず「Web 役員会」にトライすることになりました。

仙台支部の役員は 11 人。お仕事や授業、お弟子さんのレッスンの為に以前からネットを使いこなしていらっしゃる方が幸いにも 4 人いらっしゃるの、経験の無いメンバーは使い方を指導して頂きながら始める事になり「第 1 回の Web 役員会」は 6 月 22 日 (月) 午前 10 時からに決まりました。



自宅から、パソコンやスマートフォンを使って役員たちが集合！ 画面には参加者全員の顔が映し出され、実際に対面であって話をしているかのよう。

Zoom という Web 会議用のサービスを利用するので、支部長の A さんが会議当日に備えて、Zoom を利用したことのないメンバーの 1 人 1 人にご指導と予行演習をして下さいました。お忙しくていらっしゃるのに、本当にありがとうございました。

A さんが、先にメールで列記した操作手順を送って下さって、それからスマホで直接お話ししながら手順に従って Zoom の始め方と使い方を説明して頂きました。緊張していましたが、A さんの丁寧なご説明を頂けたので、初めての私でもとてもすんなりと始めることができました！

そして、6 月 22 日の第 1 回の Zoom を使った「Web 役員会」は役員 7 名の参加で無事に行われました。4 ヶ月振りに皆さんのお顔とお元気なご様子を見、お声を聞くことができた時は、嬉しくて懐かしくて心が温かくほぐれて行くのを感じました。ご事情で Web 会議がご無理のメンバーが数名いらっしゃる事が残念ですが、時間に余裕がある時に、我が家にいらして頂いて一緒にパソコン画面に向かえたら…と思っています。

でもそれよりも少しでも早く「Web 会議」ではなく、皆さんと直接お会いして楽しくお話しが出来る日が来る事を願っています。

先日、10 月 27 日（火）には 第 5 回、11 月 11 日（水）には第 6 回「仙台支部 Web 役員会」を無事に終えましたこと、ご報告させていただきます。

## 公開シンポジウム

### 「教育・ジェンダー・共生—コロナ禍を契機に見えてきた教育の本質—」に参加して

R. Y.

コロナ禍のもと、外出自粛している私にとって唯一のメリットが、役員会を開くために Zoom を学んだことだ。今回、大学女性協会主催の公開シンポジウムは Zoom によるオンライン参加が可能とのことで申し込んでみた。

足腰気にせずに居ながらにして参加できるのは大いに有り難い。しかも基調講演は生命科学者の中村桂子さん。どんなお話が聞けるか楽しみだった。

さて当日（10 月 18 日）。仙台支部役員会と違って、Zoom 参加者が 60 名とあって、こちらは映らず、ステージだけが映ると思い、サンドイッチにかぶりつきながらスタンバイ。やがて開会。音声乱れ、はっきり聞こえないうちに、会長のご挨拶が終了。司会は副会長の M さん。中村さんがパワーポイント使いながら、お話を進める。「人間は地球の上にいるのではない。人間も他の生物と一緒に存在。『自然の中の人間』という立ち位置でコロナにきちんと対応しなければならない」。貴重なお話が聞き取りにくい上に映像と一緒に見ることもできないのでどかしい。第 2 部のパネルディスカッションになり、ますます音が広がり、不明瞭。後で記録を読んでみようと思える。

オンライン参加は臨場感がある。もう少し音声や映像の送り方を技術的に向上させることができるならば、地方支部にとって参加しやすい便利な方法だと思う。

## 全国支部長会

F. A.

今年度の全国支部長会は、コロナウイルス感染拡大のために見送られていましたが、何人かの支部長からの要望を受け、11月15日、対面式・オンライン式併用で開催されました。北は札幌支部、南は熊本支部、各地からのオンライン参加者は18名。私もオンラインで参加致しました。対面では、本部事務局からK会長をはじめ、理事、支部長の皆様、13名が参加されました。Y支部担当理事が、予め数回にわたり、Zoom勉強会を開催して下さったおかげで、2時間半の会はとてもスムーズに進行しました。

内容は、理事・各委員会の紹介、各支部の自己紹介、本部からの報告、支部からの質問への回答等。コロナ禍の中で、他の支部も苦勞して活動されているとのこと、そのような中で既にオンライン講演会を開催している支部もありました。多くの支部から、会員の高齢化が進んでおり、会員を増やすことが課題であるというお話がありました。2017年に仙台支部で、本部主催の会員拡大ワークショップが行われましたが、支部がこれからも活発に活動していくためには、会員拡大をしていかななくては、と改めて思いました。今年の12月に協会のホームページがリニューアルするそうです。それに伴い、支部のページも本部のフォームに従ってリニューアルするよう、説明がありました。

コロナ禍の中、全国総会が書面決議だったので、今回、本部役員の皆様、他の支部長の皆様と顔を合わせてお話しできたこと、大変うれしく、有意義な会となりました。

### ◆ 特別企画 コロナ禍と私たちの仕事・暮らし ◆

外出や会合の自粛が求められるなか、支部会員の皆さんがどのように過ごしておられるのか教えていただきたいと8月にお声がけしたところ、10名の方々からエッセイが寄せられました。ありがとうございました。

### コロナによって変えられた日常

Y. A.

コロナによって日々の生活が特別に変えられたわけではありませんが、毎月東京に行っていた主人も出かけなくなり、家中で周囲とは没交渉の生活が半年以上も続いています。私の場合、いくつかのサークル活動も全て休会になり、家のことは何もしない、主人の世話と家事に明け暮れる毎日です。問題なのはこの生活にすっかり慣らされ、抜け出す気力が失われようとしていることです。特に人との関わりも薄くなり、お互いに刺激しあうことも、気持ちをリフレッシュさせることも無くなってみると、失ったものの大切さを実感させられています。

そんな中、読んでいた雑誌の中で、心に留まった文章がありましたので紹介してみます。『思えば2020年、オリンピックイヤーとして幕開けした年だった。突然やってきた、あの“新たなモノ”。ウソみたいに全てがひっくり返り、世界中が混乱し、瞬く間に驚くような数字に飲み込まれ、街中から人が消えた。まさに、未知な状況に塗り替えられていく日々。誰もが恐怖と無力感を覚え、向かう先の見えない中、じっとするしかなかった。季節は足早に春か

ら初夏へ。人間界は、何もかもがストップしているのに、自然界の生命力は、事もなげに日々の成長を遂げていた。情報が錯綜し、戦々恐々としているマスメディアから逃れ、私は自宅の窓から、ずっと外をながめていた。それでも世界は動いていた。止まっているのは私たちだけ。そのことに気づき、ハタと思った。「しっかり止まろう。止まっている今を感じ尽くそう」そんな風に思い始めたら、不思議と“動く必要”について考えるようになった。どこかで基準としていた“通常・普通”といった概念も必要としなくなり、自分にとって、最も大切だと感じられるものにのみ、心と体を動かせばいい。

風によって羽ばたく鳥や、太陽に向かって伸びる植物のように。

ひたすら好きに過ごす“何でもない時間”。穏やかさを私に与え“与えること”を許す豊かなひと時。いままでの暮らしの中、私はこんな心の状態を、どうやって得ることができていたんだろう？』

この文から、自分のこれからの日常の過ごし方を教えられたような気持ちになりました。皆さんはどうでしょうか…

## 世界が 180 度変わったとき

C. A.

私は鍼灸師として、ご高齢の患者さんには「できるだけ外に出てください」「人と会ったくさん話しをするようにしてください」と言い続けてきた。とりわけ、適度に大きな声を出したり、カラオケで歌ったりするのは呼吸器の機能を維持するためにも良いとお勧めしてきた。ところが、COVID-19 の流行によって世界は 180 度変わってしまった。患者さんたちに「できるだけ外には出ないでください」「人とは会わないようにして、近い距離での会話やカラオケは避けてください」と言わざるを得なくなってしまったのだ。それまで信じてきたものを、自然界から全否定されたようなものだ。精神的なダメージは大きかった。

他の医療行為と同様、皮膚に直接触れる鍼灸治療は、自分にとっても患者さんにとっても感染リスクがある。新型ウイルスが日本で流行し出したら鍼治療は控えた方がいいと患者さんとお話ししていたので、3 月下旬から 5 月はほとんど休業状態で、東日本大震災の時には何とかつながった首も、今度こそ切られるかなと思った。

しかし 6 月になると、コロナに罹るより家に引きこもってボーっとしてしまう方が怖いとおっしゃって、患者さんたちが戻ってこられた。そこで、これまで行ってきた消毒や換気に加え、治療のスペースを倍に広げ、患者さん同士がベッドで隣り合うことがないように配慮して、治療を再開することになった。また、非常勤講師をつとめている医療系の専門学校も、通常どおりの対面授業を再開した。感染が急激に広がらないよう対策をしながら、綱渡りではあるが、かつての日常を取り戻した感がある。人間はけっこうしぶといものだ。

新型ウイルスの流行は社会のさまざまな問題を浮き彫りにしたが、なかでもショックだったのは日本の官僚や行政システムの劣化である。日本は政治がダメでも官僚が優秀だからうまく回っているのだと、何となく信じてきたが、今回明らかになった国の危機管理の甘さには絶望しかなかった。感染症のパンデミックはこれからも起るだろうし、様々な自然災害にも襲われるだろう。何が起こっても庶民はしぶとく、泥臭く暮らしていくしかないのだが、政治や行政のシステムもこれを機会に改革を進め、効率的にサービスを提供してほしい。

## 人生の先輩方であるお姉さま方へ

Y. I.

人生の先輩方であるお姉さま方、お変わりないですか？ 国際ホテルに於いて、3密の状態が開かれた新年会が嘘のようです。

茨城県で高校家庭科教諭として27年間勤務し、2年前、仙台移住を機に非常勤講師をしていますIです。

今回のコロナ禍では、正規採用者と非正規採用者との格差を痛感。3ヶ月間の休校による無給生活の経験により、リーマン・ショック時、海外旅行を楽しんでいた自分の愚かさにも気づかされることになりました。反省の気持ちが6月に学校を再開させてくれたのでしょうか。6月に1ヶ月分の給料は戴けることになりました。恵まれた環境のままでは、鈍感のまま何も気づくことはできかったと思います。

ホームステイ中には、ポジティブ精神で過ごしていました。

1) いつまでも潤い続けるお姉さま方のためのブレンド薬膳茶を考えてみました！

～お姉さま方のためのアンチエイジング茶～

☆黒豆（血行促進 むくみ）

☆クコの実（眼精疲労 足腰のたるさ）

☆ローズマリー（冷え 記憶力の減退）

☆ラベンダー（記憶力の減退 精神不安）

☆ハトムギ（むくみ 肌の活性化）

※300mlの湯に対して黒豆小さじ2杯 他各1杯

（5分蒸らす）

2) 気の毒に思った友人からの依頼で始めました！

「ヒントポット」というサイトで記事を書いています。

また3密の状態でお食事会が開かれることを楽しみにしています。お身体には十分ご注意ください。



## コロナ禍のお蔭で

M. U.

今年2月8日の仙台支部新年会で、私は、東日本大震災から10年を迎える来年、韓国から『ヨン様』を招いて震災時に真っ先に被災地に寄付（10億ウォン）をしてくれた事への感謝を伝える催物をしたい、と述べました。この突拍子もない企画は昨年秋から動いていましたが、ご協力を求める先々で、ヨン様？ 韓流？…もうそんな流行は一部だけで、日韓関係も悪化しているし当分韓国関係の企画は無理でしょう、と言われました。

そんな中で唯一ご協力下さったのは元外務省の方でした。実現出来たら、それは日韓両国、両政府にとって良い効果をもたらすと思いますと仰って下さり、新年会の二日前、東京の駐日韓国大使館で公使の方にお引き合わせ下さいました。公使は【2021年&ヨン様】でなければならぬ意味をご理解下さり、早速特別ルートでヨン様にお伝え下さるとお約束して下さいました。私はこの大きな一歩前進に心から感謝し、そして仙台の新年会で張り切ってご報告をしたと思います。

ですが、それからすぐ3月初めには韓国人の入国制限措置が敷かれ、国内の日韓の集会イベントはほぼ中止となり、来年の企画でも実現を決定する事は難しい状況になりました。震災から10年という節目の年だからこそ『ヨン様』企画でしたが、私は、来年に拘らず又時間をかけて日韓文化交流の発展に努めていこうと思直しました。

ところが今度は、コロナ禍で外出を控え、自宅で過ごしながらネット配信で韓国ドラマに夢中になった芸能人や文化人等の発言によって、春から再び爆発的な韓流ブームが沸き起こり、去年まであんなにそっけなく私の韓流企画を却下していた方々から、色々な問合せを頂くようになりました。まあ仕事とはこういうものだと思いながら、コロナに負けずに頑張ろうと元気になりました。

## コロナ下のシルクフォーチュン

K. K.

シルクの仕事をはじめて22年になります。

始めは素人の私が始めた「お店屋さんごっこ」でしたが、少しずつ知識を得、勉強の機会も得て徐々に夢中になりました。

絹の短繊維を紡いで作る紬生地で寝具を作れば、就寝中に絹の有効性を100%もらえらると思いい、パッド型シーツを作りました。絹は綿の1.3倍の吸湿性があり、乾燥時間は綿の2/3の時間です。このシーツは、夏は自分が寝汗をかいていることに気づかない程ですし、冬は電気毛布や湯たんぽをやめた寒がりさんが沢山います。

コロナが始まってすぐに、この絹の紬生地の特性を生かしたマスクを作ろうと思いました。初めは両面を紬生地で作りましたが、見かけが悪く、絹の特性をわかった方にしかアピールしません。そこで、表面をサテンや他の色柄が綺麗な生地やレース生地にし、肌側はすべて紬のマスクを作りました。すると、紙マスクやウレタンマスクでの肌あれにお困りの方にアピールして、池袋の東武百貨店で3ヶ月連続、洋品部門のMVP賞を頂きました。小さなマスク用に幅140cmの紬生地を200mずつ織りますから、初めは恐々でしたが、リピーターの方や口コミに助けられて、今も頑張っています。



世界中に大変な禍根を残したコロナ禍ですが、今まで絹の有効性を中々お伝えできなかった方に、私の絹の恩師が教えて下さった「絹は人類の宝もの」を分かっていただけとしたら、大きな喜びです。

なお、商品は国分町の旧リッチホテルのある、東芝ビル1Fの「シルクフォーチュン」でご用意がございますし、ネットでも「絹シルクフォーチュン」でご覧いただけます。価格は2200~2750円（税込み）です。

## コロナでの生活と心の変化

Y. S.

3月の頃は「夏にはこのコロナ騒ぎは収まっているだろう」なんて、楽観的な考えでいましたが、このような事になるなんて誰も想像すらしなかったことでしょう。学校の卒業式は無くなる、行事は全て無くなる、演奏会もちろん中止になり、3月の時期は先が見えず、本当に暗く落ち込んでしまいました。

その時に東京の友人が、「海外ではiPadを使ってオンラインレッスンをやっているよ。」と、映像を送ってくれました。それを見て急いでiPadを購入し、設定を次男にテレビ電話で教えてもらい、全てのレッスンをオンラインできるようにしました。今の時代、学校もオンラインで授業をしているので、皆さん全く抵抗なく受け入れてくれ、今も東京のお弟子さんにはオンラインでレッスンをしています。

昨年の暮れに父親が倒れ、手術をし、今、高齢者住宅に住んで毎日リハビリに励んでいます。2月に会って以来全く九州にも帰れず、また施設では面会もできない状態です。個人的にお願いしているヘルパーの方だけは、週に1度面会の許可が施設から出ています。今まで顔を合わせれば、お互い言いたいことをいって喧嘩ばかりしていましたが、会えないとなるとなんだか気持ちが優しくなってしまう。携帯を持ちたがらないので、連絡を取る方法と

して何かないかと考え、往復はがきに私の住所を書き込み、無理やり返事を書かなくてはいけないようにしたところ、これが上手くいきました。読みたい本のリクエストが書かれてあり、何度もアマゾンで注文してそれを送っています。

父親はとにかく韓国問題と、小池百合子に関する本ばかりリクエストしてきますので、先日仙台に関する本を送ったら、楽しく読んでくれたようです。又、本と一緒に、毎回お菓子、ご飯のお供にと何か見つけて送るようにしています。

来年の夏は普通に旅行できるでしょうか？

仙台と東京をインターネットでつないで、レッスンを実施中。

## 自動車頼りの日々

N. N.

この4月、自動車の運転免許証書き換えの日を迎えた。77歳のこの日、書き換えをしないと決心していた。

しかし、病気療養中の夫、運転免許は既に失効していて、私の運転に頼っているのに「タクシーに乗ってまで通院したくない。」とのたまう。千葉に住む長男は「免許は更新して、衝

突防止装置付きの新車を買ったら？」という。松本に住む長女は「母は車には向いていないから、車はやめたら…」という。

散々迷ったあげく、これまで乗っている車に衝突防止装置をつけてもらうことを予約して、車検を通してもらい、免許も書き換えた。まだ、私の乗っている車の会社ではあと付けの衝突防止装置をつける技術が開発されていないため、開発されたら…ということで、「予約」となった。

ところが、コロナ禍のなか、公共交通手段を使わずに移動するには我が愛車が欠かせない。二人分の通院、食料や日用品の買い物、プール通い、短時間だが、毎日のように車に乗ることになった。この10年の間に、近くにあった2カ所のスーパーがなくなってしまった。みやぎ生協の個別配達も申し込んだが、それに食料のほとんどを頼る決心もつかなかった。生きのいい魚や、色のいい野菜を目で見ても買いたかった。

こんなに車に頼ることはこれまでにはなかった。かつて、運転免許を持っていなかった頃、上田篤『くるまは弱者のもの』中公新書(1979)を読んで、「足が不自由になっても車に乗れるんだ」と、思ったことを思い出した。私も弱者の仲間入りをしたと…。

でも、たった一人か二人の移動で頻りに車に乗ることが、地球環境を悪化させるということにつながることを思うと、便利さを味わうとともに、良心の呵責も感じている。

## コロナウイルスの中での生活

S. M.

「コロナ！」の出現で、私達の生活は一変しました。目に見えないウイルスを恐ろしく感じながら、半年以上の月日を過ごしました。

いつか消えることを願って、祈ることしかできません。今まで普通に思っていた生活が、どれだけ幸せなことだったかを感謝すると共に、これ以上の苦しみを人々に与えないでくださいと、毎日のように祈っていました。

オンラインによる会合参加、息子家族ともオンラインで会う日々、10年前だったら叶わなかったことができること、それにも感謝の日々です。1日でも早く仙台支部の皆様と再会できますことを願っております。

## コロナウイルスからの学び

Y. M.

2月26日の安倍総理の会見の後から、私達の生活は全て変わりました。

今でこそアルコール消毒や手洗い、マスクなどが感染防止には欠かせないことになりましたが、当初はまだ何もわからないまま全てが止まっていきました。

4月の非常事態宣言以降、自宅でのピアノレッスンはすぐにオンラインにチェンジしました。以前からオンラインでの会議や習い事も経験していたため、私自身は何の躊躇いもなく、また生徒さんたちも本当に協力してくださり助かりました。子ども達は、ゲーム感覚で対面の時よりも画面に集中してくれるのが、興味深い現象でした。

勤務している大学は新学期が遅れました。どのような形態で講義をやっていくかを検証し



て決定するまで、何度も何度も勉強会もなされました。

講義系の授業は全てオンライン（遠隔同期、オンデマンドの遠隔非同期）になりました。私も実技レッスンの他に講義系の授業も担当しているため、どのように進めるか本当に悩みました。毎回手探りながら授業内容を提示して課題を提出させるという流れの中、始めてみたらなぜか学生達の意欲のすごさに毎回感動でした。コロナの中で確実に成長していた学生の意欲に押されて、あっという間に前期 15 回の授業（遠隔のみ）が終わりました。最後の課題は、読んでいて涙が出るほどに私の気持ちが伝わったことが感動でした。今の学生は未来の世界を担ってくれる世代です。このコロナの中の忍耐と苦渋の生活が彼らを成長させていることは間違いなく、頼もしくも思いました。

まだまだ大変な状況は続きますが、明けない夜はないことを信じて、今は生徒達、学生達と頑張っていこうと思っています。

## ステイホームと読書

R. Y.

「ステイホーム」 コロナ禍で初めて聞いた言葉だが、83歳の人生を振り返ると、思い当たる時期が3度ある。

### 1. 敗戦から帰国まで (1945～1947)

満州国遼陽（中国東北部）で生まれた私は、小学2年生の夏、鞍山市、昭和製鋼所の社宅で、天皇陛下の玉音放送を聞いた。沈痛な面持ちの大人たちの傍から抜け出して公園で遊んでいたら、お隣の女学生のお姉ちゃんが泣きながら帰ってきて、日本が負けたことを教わった。秋になり、一般邦人の引き揚げが始まって、技術者である父は留用となり、私たち家族は帰れなかった。残された子どもを集めて学校が再開されたが、私たちの生活は一変し、雑誌「主婦の友」、「小学2年生」も届かなくなり、人さらいが怖くて公園で遊ぶこともままならなくなった。

リュックサックを背負って、闇市に出かけた父が、分厚い本を買ってきてくれた。

① **日本文学全集** 覚えているのは、古事記、徳富蘆花「自然と人生」など。ルビが振られているので子供でも読めた。

② **百科事典** ところどころ拾い読み。興味を持った言葉の例として「天孫降臨」：天照大御神の命を受け、邇邇芸命が三種の神器を携え、高天原から高千穂峰に天降った。

50年後、九州旅行で高千穂峽を訪れ、子供のころの夢を果たすことができた。

### 2. 東日本大震災 (2011. 3. 22～4. 3)

震災当日、沖縄に住む次男夫婦に第1子誕生。電気が復旧した4日後、パソコンに「女兒誕生。母子とも健全」を見つけた。町内会長の夫が避難所運営を終えた22日、やっと東京からの便を手に入れ、JR高速バスで亀裂の入った東北道をひた走り、沖縄に飛んだ。息子の耳にそっくりの元気な赤ん坊に对面。お嫁さんは糸満の実家で静養。マンションのカギを渡され、毎日、国際通りをぶらぶら。初めこそ水をふんだんに使ってお風呂に入り、おいしい沖縄料理を楽しんでいたが、何もすることがない。復旧が進まない自宅のことが気になりだし、今度は仙台までの便を手に入れるのに苦労した。そんなとき本屋で見つけたのが、

**小説 琉球処分 上・下 大城立裕 著 講談社文庫**

沖縄初の芥川賞作家 大城立裕の大作。あとがきに『小説琉球処分』という作品の運命を

たどると、そこに沖縄の運命を二重写しに見るような気がする」。

「沖縄問題の根源に迫る不朽の名作」をぜひ多くの人に読んでもらいたい。

### 3. コロナ禍 (2020. 3. 2～)

高齢者は重症化しやすいといわれているが、2016年に4か月入院し、いまでも免疫抑制剤を服用している夫はとくに感染のリスクが高い。私が持ち込んでもいられないので、外出自粛を余儀なくしている。おかげで二人ともフレイルが進み、怠けぐせがついている。

読み聞かせボランティアの若い仲間が、コロナ見舞いとして差し入れてくれたのが

絵本 「あるひあるとき」 あまんきみこ 著

満州育ちのあまんさんが、可愛がっていたこけしのハッコちゃんとの別れを描いた作品。

音読みしているうちに、私もまた置いてきた人形との別れを思いだし、涙があふれ出してくるのを止められなかった。どうぞ、子どもたちの未来に平和な社会が続きますように。

つい最近、お嫁さんから贈られてきたのが

「首里の馬」 高山 羽根子著

最新芥川賞受賞作。郷土資料館で資料整理を手伝う傍ら、遠い国の人にオンライン通話でクイズを出題するオペレーター、未名子の奇妙な生活。誰かの困難を救うかもしれないと、この島のすべての情報を守るという使命をひそやかに実行する。



あまんきみこ 著

ささめやゆき 絵

『あるひあるとき』

のら書店 (2020)

## 追悼 愛知絢子さん

Y. S.

10月11日午後2時からのホテル江陽は、突然のお別れに、会場は悲しみと驚きの空気に包まれていました。絢子さんのお写真はいつもの優しいほほえみで、大武写真館（K.K.さんのご長男が経営されている）で、この夏に撮られたばかりでした。K.さんのご好意でそのお写真を頂戴したので、それを挿入します。

夏にはご自分のお体のことが判明していたと思われ、「遺影にするから綺麗に撮ってよね。」とおっしゃったそうです。「いつもの冗談だと思っていたら、本当にそのようになってしまった。」とK.K.さんはおっしゃいます。

愛知さんには、私は長くお世話になりました。思い出すことが沢山あります。愛知さんのお宅には何度か遊びに伺いました。日本酒をこよなく愛し、まだその当時は独身だった治郎さんのお嫁さんには、「実家が造り酒屋で、蛇口をひねると、蔵元からの日本酒が出てくるといのもいいな。」なんて冗談を言い、大笑いしました。また、お料理もお得意で、いつもたくさんのおつまみを作ってください、又美味しいおでんをいただいたこともあります。

襖を開け隣の部屋に行くと、池田内閣時代の閣僚のお父様の愛知揆一文部大臣の写真や、池田隼人さんからの「結婚のお祝いに頂いたのよ」と、クリスタルの花瓶があり、まさに昭和の一時代を築いた歴史がその部屋にはありました。

小学生の頃に、池田総理大臣が国会答弁で「貧乏人は麦飯を云々」のところを叔父とテレビの中継を見ていたことを思い出し、叔父がテレビに向かって何事かを言い、又両親が「愛知文部大臣は素晴らしい人だ。」と言っていたことを、細切れながら思い出しました。そんな思い出があったので、そのお部屋を、何度か拝見させていただきました。

また大学女性協会仙台支部がどのようにして設立されたかという事もお話しくれました。ほとんど、活動停止状態だった仙台支部をもう一度立て直すという活動（1996年）を中興の祖・藤崎千代子さんと浅野光子さんと愛知さんとの三羽鳥で熱心に取り組みられました。現在の支部活動の原点です。

愛知さんは生前にご自分でお別れの言葉を残されていました。

「このたび 私愛知絢子はこの世におさらばする事になりました。」と。

絢子さんらしい言葉に、我慢していた涙が溢れました。

合掌





## お知らせ

### Facebook グループを作りました

C. A.

コロナ禍で集まる機会が持てないなか、何とか会員相互の交流を図れないものかと、インターネットの Facebook 上にグループを作りました。内容は非公開で、メンバーのみが書き込み・閲覧できるようになっています。会の活動に直接関係ないことでも、会員の興味・関心



のあることなら何でも良識の範囲内で書き込み OK。これまでに、学術研究会、Web 役員会、来年の企画、おすすめテレビ番組、県美術館移転反対運動などなど、様々な内容のトピックが上がっております。Facebook のアカウントをお持ちの方はぜひご参加ください。アカウントは持っていないけれど興味がある、参加してみたいという方は、A までご連絡ください。お手伝いいたします。



## 今後の予定

### Zoom 新年会（仮題）

～久しぶりにお顔を見ながら語り合いましょう～

日時：2021年2月10日（水）10:00～

場所：各自の自宅などから Zoom で参加

誌面でもご報告したように、仙台支部では役員会を Zoom という Web 会議システムを利用して開催しています。メール、FAX、電話とちがいで、全員の表情を見ながらお話しできるので安心感があり、月に一度の役員会で顔を合わせるのを皆楽しみにしています。そこで、役員以外の会員の皆さんともお会いして近況を語り合えればと、Zoom を利用して新年会を開くことを企画しました。★インターネットにつながるパソコン、タブレット、スマートフォンがあればどなたでも参加できます。★短時間の参加でも OK です。★機材をお持ちでない方は、Zoom が使える会員の家に来ていただき、会に参加していただけます。

参加に必要な ID とパスワードを数日前にメールでお送りします。やり方がわからない方にはアドバイスいたします。F.A.または C.A.までお問い合わせください。

仙台支部便り「けやき」No.21

2020年11月20日発行

発行 （一社）大学女性協会仙台支部